

■ 今月の特選句

2020年5月



羽ばたけば黄粉こぼるる鶯餅

村松道夫

鶯餅の命名は豊臣秀吉。餡を糯米の求肥で鶯の形に包み、「うぐいす粉」という青大豆の黄粉をまぶす。「うぐいすの粉」は鶯の糞だから要注意。



愛か命か濃厚接触不可の春

南とんぼ

男女の仲に政治家が待ったをかけることに異を唱えてみても「命あってのものだね」だわね。コロナが収まるまでの辛抱よ。世の動きを捉えた一句。



名は体をあらはす例として眼張

小林英昭

煮るほどに目がぱっちり。魚の名はそんなのが多いね。純金ではないが金魚。刀のごとき太刀魚、白いから白魚、青いのが鯖、細長いから細魚。



濃厚接触初蝶と私と

桑田愛子

そうか、濃厚接触も相手が初蝶ならばコロナ感染は心配無用だね。濃厚接触とドキリとさせておいて、初蝶とでしたのタネ明かしの構成もいい。



アンパンの臍の胡麻とる四月馬鹿

荒井 類

アンパンの穴は、生地と餡を密着させるためのもの。パンの穴の胡麻を見ていると、なんだか取りたくなってきた。自分の臍のゴマを取っている気分。



尖がった靴で躓く新社員

久松久子

学生気分が抜けるには半年はかかるなあ。靴も考え方もだんだん丸くなって少しずつ社会人になる。新社員の緊張感も上手く表現されたね。